

よせぎ

平成 29 及び 30 年度 小田原森里川海インキュベーション事業“寄気”申請書

指導教員 情報	大学名称	慶応義塾大学
	学部・学科	環境情報学部
	ふりがな 氏名	いちのせ ともひろ 一ノ瀬 友博
	大学所在	神奈川県藤沢市遠藤 5322 慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス
	研究分野	農村計画、地域活性化
①取組みたい調査研究テーマ		石橋・米神地区の樹園地における耕作放棄地の立地特性と獣害発生地分析に基づく地域ぐるみの獣害対策-ワナオーナー制度の提案
②調査研究内容		
<p>近年、全国的に野生鳥獣による獣害が深刻化している。小田原市においても中山間地域におけるイノシシ・サルによる農作物被害が確認されており、特に小田原の特産品である柑橘類の被害が深刻である。小田原市で栽培されている柑橘類は14種類ほどあり、季節ごとに様々な品種を栽培・収穫するため、被害は1年を通して確認されている。</p> <p>現在の対策としては、イノシシ被害については農家が個別に畑にわなや電気柵を設置している。またサルについては猟友会によるサルの追い払いに加え、県の指導のもと個体数管理が行われている。しかし、個人の対策では限界があるうえに、野生動物が移動すれば別の場所で被害が発生する可能性もある。地域全体の被害を減少させるには、耕作放棄地や竹林などを減らし野生動物にとって生息しにくい環境を作る「生息地管理」が重要になってくる。また、イノシシについては捕獲によって個体数を減らす「個体数管理」も必要になってくる。そこで本研究では、小田原市の住民・農家・市民団体が地域ぐるみで効果的な獣害対策を行い、小田原市における獣害被害(イノシシ・サル)を減少させる取り組みを行うこととする。また、イノシシを捕獲する際にワナオーナー制度を導入し、ワナ設置の費用をオーナーに負担してもらい、そこで捕獲したイノシシについてはオーナーが受け取る権利を持つことで、小田原地域の獣害被害対策を支援する仕組みを提案・実施する。また、既存のみかんの木オーナー制度をさらに普及させるような情報発信を検討する。</p>		
③提案テーマにより、どのような経済効果が想定されるか		
<p>現在の小田原市の被害状況は、イノシシ・サルによる被害面積は 16.19ha、果樹の被害金額は 29,957(千円)にのぼっており、小田原市の樹園地の面積は 1,020ha である。1㎡あたり 2.9(円)の被害であるので、あまり高コスト(電気柵や金網など)の対策は効率的ではない。そこで、地域住民による生息地管理に加えて、ワナオーナー制度によってワナ設置費用をオーナーに負担してもらうことで、農家にとって経済的負担が少なくなる方法で被害を減少させることができることが想定される。ワナオーナー制度においては、ワナにイノシシがかかってもかからなくても1つのワナにつき一定の金額を納めてもらうことで、比較的に見えやすい形で小田原市の農業を応援したり、獣害被害に興味を持ってもらうことができると考えている。</p> <p>また、既存のみかんの木オーナー制度では早川地区では 50 キロあたり 10,000 円程度で契約されており、1 キロ 200 円ほどになる。一方、通常出荷した場合は 1 キロ 80 円ほどが利益となるため、みかんの木オーナー制度をさらに普及させることで農家にとって、より多くの利益が見込める。現在、早川地区ではみかんの木オーナー制度に参加している農家が 10 件と早川地区の全農家の2割程度にとどまっているが、SNS 等を利用しオーナーが所有しているみかんの木の情報を頻繁に確認できるといったような積極的な情報発信を行うことで、みかんの木オーナーを増やし、参加農家も増加させることができる。</p>		
④調査・研究の方法		

本研究の対象地域は神奈川県小田原市石橋地区、米神地区である。この地域では、小田原市で確認されている二つのサルの群れのうち、H群とよばれる50頭ほどの群れがよく出没する地域であり、柑橘類を栽培する農家が40-50軒集まっており、柑橘類の食害が発生している。また、イノシシによる食害、柑橘類の樹枝破損などの被害も確認されている。この地域では、以前は柑橘類を栽培していたとみられる耕作放棄地や、管理されていない竹林などが見られる。そのような低未利用地の増加が獣害を助長し、さらに耕作放棄地等の管理されない土地が増加するという悪循環に陥っていると考えられる。本研究では、対象地の土地利用を現地調査や聞き取りによって明らかにし、GISを用いて土地利用図を作成する。また、農業従事者に獣害発生状況について聞き取り調査を行い、同様にGISを用いてデータベースを作成する。これら进行分析することにより効果的な野生動物の生息地管理、わな猟による個体数管理を明らかにする予定である。

⑤調査・研究のスケジュール

平成29年度

4・5・6月 石橋地区、米神地区において獣害被害調査の1回目の聞き取り調査、GISを利用した土地利用調査

7・8月 土地利用状況や自動カメラによってワナを設置する場所、生息地管理を行う場所の検討、ワナオーナー制度の具体的な実施方法を検討

9・10月 ワナ設置実験、生息地管理、みかんの木オーナー制度における効果的な情報発信方法の検討・実施

11・12月 ワナ設置実験・実施方法を決定、2回目の聞き取り調査

1月 中間報告書作成、ワナオーナー募集

2月 中間報告会、ワナオーナー募集・設置開始

平成30年度

3・4月 3回目の聞き取り調査 ワナオーナー募集・設置

5・6月 生息地管理、ワナオーナー募集・設置、

7・8月 みかんの木オーナー制度について評価、ワナオーナー募集・設置、

9・10月 みかんの木オーナー、ワナオーナー募集・設置

11・12月 4回目の聞き取り調査

1月 最終報告書作成

⑥おだわら環境志民ネットワークとどのように関わるのか

小田原環境志民ネットワークに所属する多くの団体は、実際に山地や里山の環境を保全する活動を行っているが、活動場所においてすでに獣害被害が発生し始めているところもある。効果的な獣害対策を実施するために、小田原環境志民ネットワークが互いに獣害被害に関する情報を共有し、野生動物の生態を学ぶ場や、捕獲研修会を企画する。

また、小田原環境志民ネットワークに所属する多くの団体は、一部の市民の活動によって支えられており新規加入者はあまり多くない状況である。より多くの市民が興味をもつような情報発信方法を共に検討したり、団体に所属していない市民が気軽に自然とふれ合えるような場作りを検討する。

⑦その他の関係者として連携が想定される団体・企業等

・小田原市猟友会

・小田原市役所

・JA かながわ西湘 早川支店

⑧大学として小田原市との今後の連携についての提案

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(以下 SFC)は、神奈川県中部に位置し、小田原市近くに立地している。これまで教員と学生による域学連携を日本全国で行ってきており、数々の実績がある。今回の研究をきっかけに近い将来には小田原市と包括的な提携を結び、積極的な域学連携を推進したいと考えている。本事業では、連携団体として想定していないが、ゆくゆくは市内の高校や中学校等との活動も提案したい。